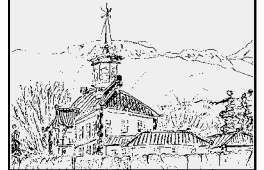


城北



令和5年1月1日現在	
総世帯数	3,771
総人口	7,864
男	3,765
女	4,099

他地区をめぐる

その2

白板地区の歴史を訪ねる

昨年(令和4)年11月8日、後藤講師の案内で白板地区北部について学びました。

徒士町から大門沢川に沿って昔からの小道を歩き、姫宮神社から塩釜神社の前に出て、西側の昔からの細い道を通り、正麟寺に出ます。

正麟寺の墓地には、松本藩の家臣の墓、五輪塔、男装の麗人で知られる川島芳子や初代松本市長 小里頼永の墓があります。小里頼永は、7期30年の長きに渡り市長を務め、国宝市長と呼ばれ、田町にかつて住んでいた家があります。また、松本藩の忍者だった、芥川家の墓を知

りました。「墓地は慰霊の場所だけでなく歴史の資料が詰まった所である」と講師の説明はとても納得できました。



▲配水池の内部へ



▲歌碑の前で、浅井洌自筆の書を特別に拝見。

場所を移動して城山配水池の内部も見学しました。名水として誇れる松本の水を、すでに大正時代から旧市内に配水していた事は先人たちの努力の賜物です。

城山公園は天保14年に市民開放され、桜や楓など植えさせて桜の名所となりました。また、吉江孤雁、浅井洌、香川景恒などの歌碑が多数あります。

駒町の馬頭観音は、貞享騒動の時に赦免状を持った使者の馬がこの場所で倒れ、その馬を葬ったことが始まりと言われています。最後に白板地区公民館を見学して終了した、2時間半の地区巡りは、先人たちの人生と歴史に深く触れる事が出来ました。

ぐるぐる城北 施設訪問

東筑摩塩尻教育会館

城北公民館のすぐ北に建ち、会のシンボル物ぐさ太郎が見上げる、公益社団法人東筑摩塩尻教育会館について事務局長の柳生さんに伺いました。会は明治17年に設立さ

城山公園から下ると貞享3年加助騒動の義民塚があり、発掘された18体の遺骨が祀られています。丸の内中学校の近くには、女性だけの「俳誌」を創刊主催した杉田久女の墓があります。久女の父が松本赤堀家の生まれであったことからこの地に分骨され、高浜虚子が筆を執った「久女の墓」の墓碑銘があります。また、久女の句は城山公園にもあります。

れ約140年の長い歴史があり、二代目の現施設は昭和36年に建設されました。会の目的は会員相互の研鑽により職能の向上に努め、もって地域の教育の充実と文化の進展に貢献することです。目的達成のため現在は小学校13校・中学校8校、義務教育学校1校、386名の会員教師が研修会・総会などを開いて日々児童生徒の健全育成、地域の生涯学習の振興などに努めています。



▲会の象徴、物ぐさ太郎の像



▲広々とした講堂は、地域での利用も可能です。

本館・講堂・会議室9室を備えて、地域への施設開放も行っていますのでご利用いただきたいと思えます。特筆すべきは、会津八一や折口信夫・柳田国男、杉浦重剛の一流の

「信のおける人」「あてになる人」を育てるのが教育の本質で、おろか権威に屈せず、後に才能を発揮できる、磨けば光るような子どもを育てたいと、かの物ぐさ太郎を会の象徴にしております。子どもたちが腹ばいの太郎に「何を見上げているの?」と尋ねると、きくと「君たちの明るい未来を」と答えることでしょうね。

珈琲焙煎講座

11月27日(日) 珈琲



焙煎講座では、11人がコーヒの焙煎を楽しみました。参加者が焙煎した豆を少しずつブレンドしたコーヒの試飲も行われ、会場となった城北公民館料理実習室は、コーヒの良い香りがただよっていました。



▲珈琲の香りに包まれる会場

城北地区

視察研修

人権啓発推進協議会

12月6日長野県人権啓発センターを14人で視察し、「外国人の人権と私達よりよい共生のために」というテーマで、長野県人権啓発センター 寺尾文子さんより講習を受けてきました。

まずは私達を取り巻く情勢ということで、新聞記事からの情報をもとに解説されました。外国人をめぐる問題として、労働者・技能実習生の問題、生活・文化に関する問題、偏見・ヘイト・言葉・教育等の問題があるとのことでした。また、統計から考えることとして、過去11〜13年分の在住外国人数・在留の背景等の解説を受けました。外国人からは、困りごとをどこに相談すればいいのか分からないとの意見があるそうです。

また、外国人と共に暮らす社会について、「望ましい」と答えた県民が75%で



▲外国人の人権について学ぶ参加者



▲センター内では、パネル展示とおして様々な人権問題を学べます。

あるのに対し、「望ましくない」と答えた県民は約12%でした。その理由として「習慣の違いによるトラブル」を挙げた人が65%、「治安の悪化」が20%、「日本人雇用の悪影響」が15%との集計結果がありました。それらの結果を踏まえて、外国人とのよりよい共生のために、偏見の排除・支援の動き・地域コミュニティとの交流・多文化の尊重と共生が必要であると解説されました。現在松本市で進めている多文化共生推進プランも紹介されました。

終わりに、「社会は様々な人々の集合体。私たちもその一員であり、だれでもがお互いに隣人です。そこにいるのは『人』なのです」の言葉で講習を締めくくりました。今回の研修は、外国人の方と共生していくことを考えるよい機会となりました。

城北の年末年始



▽のびのびひろば



▼鼎談深志



▼蟻ヶ崎東町会だべり会



クリスマス会

もちつき大会



▲蟻ヶ崎町会



▲蟻ヶ崎東町会



書初め大会



▲田町・新田町・北馬場・徒士町・旗町町会



▲沢村町会

三九郎